

観音巡り -三山木の古代-

早雲 だより

第144号
歴史グループ早雲
代表 浅田雅司
平成31年3月1日
発行



今城塚古墳

継体天皇
 地方豪族から58歳にして河内国樟葉宮において即位
 かし、武烈天皇の姉手白香皇女を皇后とし。即位後19年
 かかって526年に大和国へ入り、都を定めた。
 継体天皇陵は茨木市の三嶋藍野陵とされるが学会では
 近くの高槻の今城塚古墳が比定されている

平成31年年1月27日【三山木駅】に25名が集合。
 兎に角寒いので同志社大学に向かい1、6キロを歩く。広
 大なキャンパスである。しかしこれからは縮小されると聞
 く。

大学正門から入り、すぐのところ伝承地【筒木宮
 跡】である

構内を奥に進んでデイビス記念館裏が南向き斜面になっ
 ており8基の古墳【下司古墳群】がある。天井石が無いが
 かなり大きな石室もある。最近京都府指定の史跡になった
 (新聞記事参照)

デイビス記念館の学食で昼食。

午後は同志社キャンパスを出て観音寺に向かう。本能寺
 の変の時徳川家康が堺から関東へ脱出した道筋といわれる
 【普賢寺川】に沿って進む。 【観音寺】では有名な観音
 像を拝す。観音寺を出たところで、観音寺を復興して観音
 寺殿と呼ばれた【近衛基通墓所】に立ち寄る。三山木駅ま
 で帰り、近くの郷土史家の私設【竹取物語博物館】を外か
 ら見て【寿宝寺】へ。千手観音拝観は3班に分かれ拝観済
 んだ人から流れ解散する。

ハイキング前夜9時頃の彦根地方は猛吹雪で明日の積雪量は如何ほどになるのかと、心配していたが、3〜5cm程度でひと安心。

京都駅付近でも薄化粧、三山木はさすが雪はないものの厳しい冷え込みだった。

三山木辺り南山城は京都でありながら奈良文化の雰囲気の色濃く残す地域だという印象を強く感じた。

私の住む滋賀と縁の深い継体天皇の筒城宮跡。

観音寺住職の丁寧な説明に納得、ま、寿宝寺の十一面千手千眼観音立像の昼光と月光との表情の違いの演出には感動。午後からは陽も和らぎ快適なハイキングとなった。

井内さんの”地獄・極楽検定”私説京都検定”等々毎回ユニークな問題を提供してくださり、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

【史跡】

下司古墳群・大御堂山古墳(京田辺市) 同志社大田辺キャンパス内の古墳時代終末期の群集墳と単独墳。新たに台頭した集団が造り、社会情勢や交流を知る上でも重要。

京都新聞から

小説 六道

S・I

(終わることのない不幸と

終わらない幸せ)

(畜生道)人間の顔をした馬や牛

動物をいじめて落ちる畜生道

背中を打つムチの音は、道が坂にかかるにつけて激しさを増してくる。小雨が降り続けているがあまり気にならない。一歩一歩大地を踏みしめる俺の足は既に限界を超えている。

しかしここは踏んばらなくてはならない。負けてしまえば、俺自身荷物とともに後ろに放り出されてしまうだろう。それなのにまぶたは重く頭はズキズキと痛む。全身の力は抜けてゆくばかりである。

道の横では人間と荷物を積んだ馬どもが急ぎ足で俺を追い抜いてゆく。馬上の荷物は俺が運んでいる米俵とは比較にならない程の少ない個数だ。俺の目にはそう映る。

きつとそうにちがいない。

突然背中の中のムチが止まった。

一度に歓声が上がりに、道端に居る全ての衆生の目が歓声の上がる方向に釘付けになった。

のろのろと重たい頭を上げ、その方向を見上げると葦毛の老馬が前足を空に向かって高く上げ、馬上の荷物を全て放り投げてしまっていた。そして、馬の轡を取っていた男は道路脇の田んぼの中でのびていた。「あいつかみさんが先週亡くなったので、自暴自棄になったんだ」俺の前を歩んでいた老牛が振り返り教えてくれた

「あいつかみさんにベタほれで、来世まで誓っていたんだ。」

「かみさんの具合が悪い時に馬方が何の処置もしてくれなかったらしいんだ。それで先日亡くなってしまうた。」

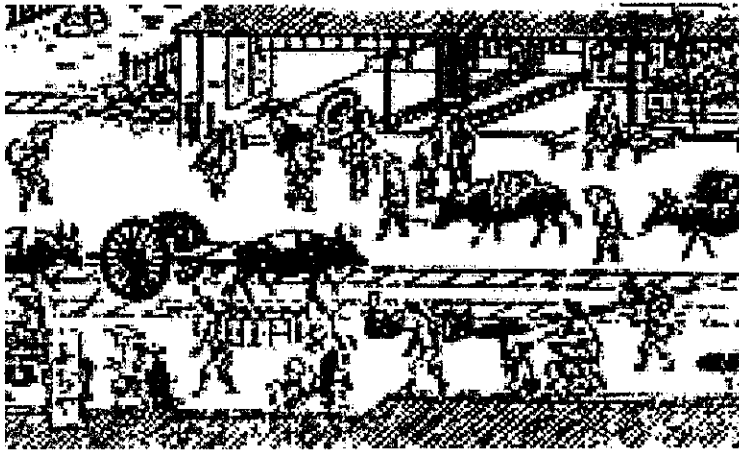
「これは所謂、意趣返しだなあ。しかしこれでかみさんとは別れ別れだ。馬方は死んでいる。このまま我慢してじっとしていれば良かったのに：：。」「明日という日は誰にも見えないけれど明日は必ず来る。それと同じで地獄を見たものは無いけれども地獄は必ずある。」

老牛は小さくつぶやいた。

急に雨足がきつくなり、人々はまた元のように荷物を運ぶという作業を再開し始めた。行進の開始のゆるやかなムチが背中で弾けた。俺は又のろのろと歩み始めた。

そして蹴上の坂を上り切った所で俺の心の臓ははじけた。重たいまぶたはさらに重くもう周りの動揺は気にならない。

俺は深い眠りに入った。



【井内講座】

(私説京都検定) 解答

①京都市内のこの町名の読み方を平仮名で書いてください。

鳥丸丸太町 2通りあります

答え からすままるたまち

②12月31日に東山区の八坂神社で行われているのをけら参り(詣り)のをけらとは何でしょう

A 動物

B 植物

C 鉱物

答え B

菊科の植物
邪気を払うと
言われている

③平安時代に子供中心に始まり、のちには庶民の間に広まった「ブリブリギツ」のような遊びがあります。ホッケーのようなものです。映画「織田信長」は、この時に遊んだシーンが出てきます。幼少の時に遊んだ「ブリブリギツ」を漢字で書いてください。

答え 振振毬杖

④京都では、戦争(応仁の乱)でなく、第2次世界大戦です)の影響は少なかつたですが、それでも空襲は有り、多数の方がなくなつています。では、京都市のどの地域が空襲を受けましたのでしょうか? 3カ所上げてください

答え

馬町
右京区春日町

京都御所

太秦

西陣
5カ所あつた

⑤五山送り火を京都在住以外の人がよく大文字焼きというのは正解でしょうか?

答え

京都の人にとっては不正解であるが関東では実際に大文字焼きと命名された行事が多くある。故に正誤無し

⑥私(井内)は 左京区高木町のバス停の近くに住んでいます。ある時、その住所の話をしていると「あなたの住まいは京都ではないと言われました。さてそれは何故でしょう?

答え

洛外だから

(昔は愛宕郡下鴨村)

【編集後記】

ハイキングで行った所が新聞記事になる事があります。今回の下司古墳群が京都府の史跡に指定された記事がありましたので転載しました。井内氏の小説、濱野氏の中学生の時の教科書の利休の話を載せました。一口感想文が森氏のみで少ないですが。

歴史グループ早雲

代表

浅田雅司

付録

歳末年始に書齋を整理中発見した

中学一年生の国語の本から。

T・H

幼き日の利休

その日堺の紹鷗の家では、茶の客として一貴人を迎えるために朝から忙しかつた。

茶道の宗匠として当時無双の誉れを得ていた紹鷗自身が先に立って、数人の弟子とともに床の飾りつけ座敷から庭の掃除と手落ちなく指図下、巳の刻頃にはすっかり準備が整い何時客を迎えても差し支えない様になっていた。

朝から疲れと準備のできた気安さから紹鷗は縁に座って心静かに一服した。

わざとらしさを嫌う紹鷗の好みから庭には五、六本の立ち木と少数の草と庭石とが配置されたのみであつたが地続きの林が庭の背景となつて自然に奥深い風情を作っている、今掃除したばかりなので掃目も鮮やかに初秋の日光にくつきりと

木々の陰を印しているがいかにも明るく気持ち良かった。紹鷗は満足げにあたりを見渡していたが何か思い出した様に急に手を鳴らして人を呼んだ。

誰かおらぬか。はい。

遙かに返事があつてバタバタと小さな足音とともに十一 二ばかりの利発そうな、かわいい小坊主が現れた、そして紹鷗の姿を見ると一 二間手前でピタリと手をつかえた、拭きぬいた廊下に小坊主の影が涼しく映える。お師匠様何んぞ御用で！

おおそちか実は特にそちに頼みたい事があつてのう

は、わたしに！

そうじゃそちではなうては出来ぬ事じゃと思うが、そち、ご苦労じゃが、あの庭を掃除してくれんかのう。

紹鷗は例の掃目も鮮やかな庭を指したあのお庭で。

小坊主くるくる目を見張つた、その庭はたつた今他の弟子たちと掃除し終わつたばかりなのである。

さようじゃ、紹鷗は大きく頷いた。

はあ

小坊主は師の意をはかりかねて、暫う

く首をかしげていたが、やがて承知致しました、と元氣良く立ち上がったちよこちよこ庭に降りた小坊主は、一本の木の上に立って暫く梢をうち仰いでいたが、小さい腕に力を籠めると、ゆらりゆらりとその木を揺すぶるにつれ病葉の五、六片がバラバラと落ち掃目鮮やかな庭に落ち散つた。

五六片の病葉は何とも言えぬ風情を添えた、今まで余りに明るすぎたとも思われた庭もこれによって、ぐっと奥深いゆかしさが添えられた。

どうするか？

じつと小坊主の様子を視て立って紹鷗思わずオオと感嘆の声をもらした。

お師匠様掃除致しました、

今の力技にぽつと頬を赤らめ小坊主、紹鷗の前につつましく躓いた。

おおご苦労じゃつた。紹鷗如何にも頼もしい小坊主を見つめて微笑んだ。

この小坊主これこそ豊太閤の師としてその名を世界に広めた千利休の幼き姿であつた。